

第16章 第一次大戦と大戦後のヨーロッパ 4. 第2次世界大戦

b、ヨーロッパでの大戦の推移(2)

- ④ 1941.6 ドイツ軍、[1] へ突如侵入 ([2] 戦の開始)
- 当初はドイツの優勢→1942[3] の攻防戦以後ソ連の巻き返し
- ↓
- ソ連、連合軍との協調を強化→米英に接近、英と同盟、1943 [4] を解散
- ④ ヨーロッパにおける連合軍の反攻
- 1943 連合軍の[5] 上陸→ムッソリーニ失脚、バドリオ政権、連合軍に無条件降伏
→北イタリアをドイツが占領
- 1944.6 連合軍、北フランスの[6] 上に陸 (第二戦線を形成)
→フランス解放=[7]、新政府を組織
- 1945.5.7 ドイツ降伏

c、アジア・太平洋戦争の推移

- ① [8] 年12月8日 日本軍、アメリカ真珠湾を攻撃 ([9] 戦争開始)
- ↓
- ② [10] 諸地域に進出、フィリピン・インドネシア・ビルマで親日政権を樹立
→当初は解放軍として歓迎→強制労働や日本語や神社参拝などを強制
→反発を買う (抗日ゲリラなど激化)
- ③ 1942 ミッドウェーの海戦、43 ガタルカナル島攻防戦で敗北→以後、各地で敗勢に
- ↓
- ④ 1944 以降、日本本土への無差別爆撃強化
- ⑤ 1945.8 広島・長崎への[11] 投下 [12] の対日参戦
- ⑥ [13] .8.15 日本、[14] 宣言を受諾し、連合国に無条件降伏

d. 大戦中の会談と宣言

- ① 1941 [15] 発表…[16] [17]
- アメリカ大統領 イギリス首相
- 戦争目的の明示と戦後世界の基本的態度 (平和機構再建など) を宣言
→アメリカの参戦の条件を整備 (→1941,12 参戦)
- ②ア) 1943,11 [18] 会談…ルーズベルト, チャーチル, [19]
- 中国
- 対[20] 戦後処理方針の発表=第一次大戦以前への復帰、朝鮮独立、満州台湾返却

イ) 1943,11 テヘラン会談…ルーズベルト, チャーチル, [21]

ソ連

対ドイツ共同作戦の検討=第二戦線の構築 (→1944,6 ノルマンディー上陸)

- ③ 1945,2 [22] 会談…[23] [24] [25]
- ドイツの戦後処理の討議→四カ国の分割統治、東西の勢力圏の分割へ (秘密議定書)
- ドイツ降伏3カ月後のソ連の対日参戦、ソ連の千島、樺太、中国利権の獲得を決定
- ↓
- 1945、8 広島、長崎への原爆投下=ソ連南進以前の日本降伏の実現が目的

- ④ 1945,7~8 [26] 会談 [27] (米)、アトリー (英)、スターリン
- ドイツ処理の最終決定→[28] 線を東部国境とする
- 対日共同宣言=ポツダム宣言発表

第二次世界大戦の性格

- 1) 帝国主義国同士の戦争 (米英仏←→日独伊)
 - 2) 資本主義国と社会主義国の戦争 (独←→ソ)
 - 3) 帝国主義と植民地・被占領諸民族の戦い
(日←→中国・東南アジア、独←→仏・伊・ユーゴ・ギリシアなどのパルチザン)
 - 4) ファシズムと民主主義の戦争 (全体的な性格)
- ↓
- しかし戦争が終りに近づき対立は再び激化 ソ連の対日参戦←→アメリカの原爆投下